

新聞發表「参考」

十一月十日

滿洲國の治安情況

滿洲國の治安情況は現下恰もポーア戦争後の南阿に酷似したものである。

45
滿洲國が生れて以来半歳内外の今日國內の治安と秩序とが完全に維持せられてあるべきものと期待するものはあるまい。何と云へば斯の如き期待は滿洲國の特種の情態に対する甚たしき無智の人のみか持つものに過ぎぬからである。帝國は日滿議定書の示すところに従ひ滿洲國內の治安維持に大なる関心を有するものである。而して兵匪は今尚各地に跳梁して居るけれども我が國にして之を剿滅しやうとすれば不可能ではない然しなから滿蒙の天地に恰皇道を宣布し兵匪を徳化して自然に帰順するに至らしむる方法が最も策の得たものたると思はれる唯是には時日を要する。又匪賊の帰順は經濟問題と深甚なる關係を有し彼等をして正業に就かしむる爲

には衣食を得るの方法を講じてやらなければならぬ
換言すれば治安秩序の恢復は國內資源の開發
と經濟的發展と平行するべきものである。

現下匪賊の跳梁跋扈甚だしき如き外觀を呈
するの過渡期の一時的現象として當然であるか
苗張軍閥麾下の敗殘兵が扶持を離れた結果
匪賊と化したものか相當多数居り之等は張學
良より直接間接の援助を受け及滿正規軍又
は義勇軍といふ名の下に其存在を繼續し特
に聯盟理事會並總會を目前に控へた今日滿
洲國の不安状態を世界に知らしめんとして
活潑な行動をやつて居る又苗張家軍閥時
代には官兵と匪賊とは互に款を通じ宣傳買
収策の手段に依り概ね兵火を交へることがなかつた
のみならず官兵が匪賊に対し兵器の供給する事々々
然るに新國家はかかる不斷の脅迫の下に一時を
糊塗するの姑息手段を廢し正々堂々として
所要の脅徴を加へて居るから匪賊の蜂起は數

に於て張家時代より却つて多うかとも知れぬ。現在滿洲國の治安に脅威を與へる分子は義勇軍及及滿正規軍が主であつて前者は約八万後者は約二万六千の多數に達し滿洲國及對の政治的色彩を持つて居る。其他純然たる馬賊及大刀會紅槍會の流に屬する匪賊も亦相當の數に達する。斯く匪賊中には若干政治的色彩を有するものと純然たる馬賊と二種類あるが其合計數字は三千万の人口に比へればさう大したものではない。國より彼等は決して愉快なる存在ではないか去りとして建國勿々の滿洲國として極めて自然の現象であつて別に恥辱しては無い事、印度印度西北國境並に東方の匪賊が印度の存在にも將又英國の權威にも影響しないと同し事である。是等の匪賊は新滿洲國の統治の失敗から來た産物ではなく張家時代の遺産として徐々に清算される

へるものだ。

滿洲國中央政府の威力普及、聯盟總會の結
果より生ずる滿洲國の存在確立、張學良の
失脚若くは資金缺乏、滿洲の經濟的發展
及討伐手段と相待って匪賊は追々と影を
没するに至るてあるう。

要するに滿洲國の治安情況は日を遂べて改
善せられて行く事は明白火を賭るか如きものか
ある。徒に過渡期の一時的現象に眩惑せられて悪
い解釋を下すのは愚の極である。

今右所論が正鵠を得た事を裏書きする爲に
以下一二の例を説明致しませう。

一 苗東北政權下に於ける滿洲治安の概況
滿洲に於ける匪賊蠢動の現状に眩惑し、苗東
北政權時代に比し滿洲國の治安が著しく紊れ
て居る様に即断してゐる向も相當あるものと見受
けられるか、右は皮相の觀察と事實とに相及し
てゐる所が非常に多い。

從來滿洲國と云へば直に馬賊を想起する程

馬賊は満洲の名物であつた。其数は時に消長はあつたが概ね四五万を下らぬ状態にて、張學良は之に対し、正規軍約十八万、不正規軍約十多万を配備して治安の維持に任して居た。其當時ですら満鉄及安奉兩線沿線地方だけの被害が毎年概ね八百余の多数に達してゐるのに余り世間の注意を惹かなかつたのは、大体次の様な理由に依るものと思はれる。

一 体満洲では馬賊と云ふ官兵と稱するも兩者は其の間に殆ど何等の差異がないと云つても差支ない程密接な關係にあり馬賊も時の軍閥に従はんか官兵となり官軍も扶持を離れると忽ち匪賊と化すると云ふ状態である馬賊は毎に官兵に依頼して兵器彈藥の供給を受け或は馬賊が都市襲撃を决行せんとするや予め都市駐在の官軍部隊に内報し爲し得る限り銃火を交へることなく目的を達しやうとし之に対し官兵も亦馬賊を徹

底的に討伐するの意志なく極力衝突回
避に努め、偶々都市商民に対する面目上正
規軍が馬賊討伐に出動する様な時でも大
抵は馬賊に退却を要求し之に聽従するのを
待つて前進するを例とし、若し馬賊が右通
告に應しない場合にも数日間銃火を交へる
事なく相對峙し折衝と宣傳とに依り馬賊
を退却せしめてゐるのである。

此の如き状態である為官兵が馬賊と衝突す
る事は極めて稀で従つて苗東北政權時代
の満洲が一見平和であつたかの如く見えた譯なのだ。

二 張學良の満洲擾亂

帝國が満洲國を承認した今日張學良として水
満洲を蜂の巣をつついた様に擾亂して我國を
して満洲國に対する援助に尻古たせると云
ふ僥倖に望を囑するより外策がないのである、某
國の如きも秘かに之を支持して居る見^{様に}受けられる
也か為學良は満洲各地の日満軍が隨所に

義勇軍の爲武装解除をせられて居るとか或は
米露兩國の圧迫に依り日本か七國の危機に
瀕してるとか又は聯盟の支援に依り學良か滿洲
に復歸するとか荒唐無稽の宣傳をなして無
知な反滿正規軍（及吉林軍、馬占山殘軍、蘇
炳文、張殿九軍）及義勇軍（不正規軍）の
反滿抗日を煽動して居る。加之學良は是等に
對し軍費、武器彈藥の供給、指導員の派遣
等直接、又は間接の援助を與へて居たのであ
る。反滿正規軍及義勇軍は右の如き學良
の宣傳と援助とに眩惑して之に加擔しある
許りてなく王道立國の滿洲國か苗軍閥型
の不良官公吏並馬賊征伐に徹底的努力
を爲して居る關係上中には自己保存本能
の爲反滿の舉に出て居るものも相當ある様
だ

滿洲現下の兵匪即ち義勇軍、反滿正規
軍、大刀会、紅槍会、純土匪、民匪等の

中て純土匪の外は其程度に差こそあり、何れも學良から直接若くは間接に指導援助を受けて居る事前述の通りであるから、之が鎮定を圖る爲には常に張家の魔手を考慮しなげればならぬ。